

12. メキシコ

1) 政治・経済・民生の動向

- ①制度的革命党(PRI)のサリナス大統領が政権を担当。
- ②米国、カナダ、メキシコの北米自由貿易協定(NAFTA)交渉が進展し、1992年締結を目指して協定草案作りの段階に入った。この協定の利点は、投資と物流増大による生産性、品質両面の競争力の向上、雇用拡大、賃金上昇などの経済効果と中南米への経済外交の影響力強化。
- ③メキシコとコスタリカ、ニカラグア、エルサルバドル、ホンジュラス、グアテマラの中米6カ国が、1996年までに中米自由貿易圏実現で合意。
- ④サリナス政権の税制改革、国営企業民営化を柱とする政・労・使の「経済安定成長協定」の効果が出て、90年の財政赤字は対国内総生産比3.5%と過去19年間で最低の比率を達成。
- ⑤サリナス大統領は1991年11月、土地のない小作農に1917年の革命の際に分配された土地「エヒード」（共有地）を民間部門が所有することを禁じた法律」の廃止を議会に提案し、農地改革による農業生産性の向上を訴えた。対象面積は約1億haで、国土の半分に当たる。これに対して野党は大資本による農地の支配が復活し、農民が追い出されると反対したが、下院で可決され、エヒードの土地私有が認められることになった。
- ⑥90年上半期のGDP成長率は2.1%であったが、農業部門は1.1%にとどまった。人口増加に伴い食糧需要が増大し、不足分を補うために食糧輸入が急増している。
- ⑦首都圏の大気汚染・公害が深刻になり、「大気汚染防止総合計画」をはじめ週1回の車使用禁止、無鉛ガソリンの発売など対策を強化。また、2年間でタクシー4万台、小型バス1.5万台を13億ドルの資金を基に新型に変える計画を発表。
- ⑧工場排水処理施設や下水施設の不備から、米国国境周辺のマキラードやアカプルコの海などの水質汚染が進んでいる。
- ⑨総人口は9,021万人(FAO,1991)、最近の平均人口増加率は2.2%あり、2,000年には1,092万人になると予想されている。一方、近年農村部から都市への人口集中が激しく、1970年には農村部人口比率41.0%、都市部人口比率59.0%であったが、1990年には農村部人口比率27.4%、都市部人口比率72.4%となり、メキシコシティは世界最大の都市となっている。

2) 農林業動向

(1) 国土の自然的概況と利用状況

- ①海岸地方とユカタン半島に平野があり、中央部には東シエラマドレと西シエラマドレの2つの山脈が南北に走り、その間に盆地状の高原が広がっている。国土の52%は乾燥地帯、41%が半乾燥地帯に属し、大部分の国土では水分供給が農業生産の制限因子となっている。高原地帯の平均標高は1,800メートルで、気候は北部で寒暖の差が激しく、中部は温暖、海岸地帯と南東部は熱帯性である。6~10月中旬が雨期、10月中旬~5月が乾期である。
- ②国土面積は19,582万haであり、FAO農業生産年表(1990)によると耕地は2,471万haで、国土の

担当：尾和 尚人

12.6%に過ぎない。この内灌漑面積は518万haで耕地の21%である。永久草地は7,450万haで国土の38%、森林は4,246万haで国土の21.7%であり、利用可能な土地の大部分は永久草地と森林で占められてる。

(2) メキシコ農業の社会・経済的背景

- ①メキシコでは1910年の革命以来、大土地所有（ラティフンディオ）を解体し、エヒードないし農業コムニダーとよばれる共同体的土地所有制度により土地の再配分が進められた。しかし、1940年以降は政府の基本方針が社会改革指向から経済発展指向に大きく転換し、土地の再配分を目指すものから農業生産の向上を重視する方向に変わり、土地改革は実質上形骸化された。
- ②1940年以降政府は、商品作物を生産する能力を備えた私的土地所有を保護育成し、灌漑施設や道路の建設など公共投資を行った。その過程で新たな土地の集中による大農場（ネオラティフンディオ）と土地を持たない農業労働者が形成され、土地所有の著しい不均衡、いわゆる「二重構造」が生まれた。1970年の農業センサスによると、5ha以下の農場は農場数全体の67%を占めるが全耕地面積の4.1%を占めるにすぎない。一方、100ha以上の耕地を有する農場は、農場数で4.3%であるが全耕地の72.5%を占めていた。
- ③新たに形成された大農場は、1950年から1970年にかけて食糧生産を著しく増大させた「緑の革命」の達成に大きく貢献したといわれる。この間にコムギ生産量は高収性品種の導入などにより、30万トンから260万トンと8倍を越す増加を示し、ha当り収量は750kgから3200kgへと4倍強に増大した。トウモロコシの生産量も同じ期間に350万トンから900万トンに増加し、ha当り収量が700kgから1,300kgに増えた。これにより1960年代のはじめに食糧自給を達成し、1965年にはトウモロコシとコムギを輸出するまでになった。綿花、コーヒー、サトウキビ、ヘネケンなど主要輸出用農作物はほとんど大農場で生産され、工業化に必要な外貨を稼ぐことができた。
- ④農業の「二重構造」は現在地域格差となって顕著に見いだされる。一般的に、メキシコ中央部および南部は後進農業地域であり、土地に対する人口圧が大きく、土地所有規模は小さく、生産性が低い。この地域では農村からあふれた失業者や不完全就労者は大都市へ出るか先進農業地域へ出稼ぎに出る。大都市、特にメキシコシティへの人口集中は激しく、これが都市の主要な社会問題となっている。これに対して先進農業地域では、大規模灌漑、機械化によって主として輸出用商品作物の生産や大規模な牧畜生産を行い、北部および北西部の一部に偏在している。
- ⑤後進農業地域では天水農地におけるトウモロコシと豆類の栽培が中心であり、伝統的で準商業的農業や生存維持農業が行われている。この地域は中央高地にその大部分が集中している。中央高地にはメキシコの全耕地の半分以上が存在している。
- ⑥先進農業地域では近代的で商業的な農業が行われ次の3地域に限定される。
 - (イ) 北西部のソノラ、シナロア両州にかけての灌漑地域で、土地生産性が高く、コムギ、サトウキビ、綿花、米、野菜などの商品作物を栽培している。
 - (ロ) 北部の北パハ・カルフォルニア、コアウイラ、チウアウア、タマウリパスの一部に地域で、①の地域に比べて規模は小さいが生産性の高い灌漑地。
 - (ハ) 非灌漑地であるが年間を通じて雨が降り、トウモロコシ、サトウキビ、熱帯果物を豊富

に産する地域で、サン・ルイス・ポトシ州東部とベラクルス州北部。

(2) 農業生産の現状と動向

- ①国内総生産に占める農業生産のシェアは8.7%(1982-1986年平均)であり、ラテンアメリカ諸国のなかでも最も低い国に属する。
- ②農業総生産、作物収量、穀物収量は、この10年間にいずれも約20%増産したが、一人当たり農業総生産や作物収量はやや減少傾向である。
- ③農産物貿易は、1987年までは輸出超過であったが、1988年以降は逆転し1990年には約10億ドル輸入超過となっている。主要な輸入農産物はトウモロコシなどの穀物類、砂糖、肉、畜産加工物などであり、輸出農産物は果物、野菜、コーヒーなどが主なものである。
- ④主要農産物の生産量(FAO,1991)は、トウモロコシ 1,353万トン、小麦412万トン、ソルガム 437万トン、豆類 166万トン、サトウキビ 3,668万トン、野菜・メロン 484万トン、果実 961万トン、コーヒー 30万トンなどである。
- ⑤灌漑に要する経費や農業資材の高騰により、コムギやワタなどの栽培から灌漑水の利用効率が高い果樹や単位面積当りの収益が高い野菜などを栽培する農家が増加する傾向である。

3) 農林業技術動向

- (1)国立森林農牧研究所(INIFAP)では、これまでに60作物種、750品種の優良品種を育成し、メキシコの農業を発展させ、国民の食糧確保に貢献した。しかし、最近20年間では農業生産の増加率が減少傾向にあり、しかも人口は約2倍に増加したために、食糧の15%を輸入している状態である。この状態を解決して基本食糧の需要を満たすためには膨大な生産増加を達成しなければならない。基本的には土壌の生産性を向上させて、国内の農業生産を急速に増大させなければならない。
- (2)国家開発計画(PND)によるINIFAPの研究では、食糧自給、外貨獲得、生産と自然資源の維持保全のための技術開発が最も重要である。

4) 国立農業研究機関(NARS)の現況

(1) 組織及び財政

- ①メキシコでは、農業水利省(SARC=Secretaria de Agricultura y Recursos Hidraulicos)の直轄機関として、国立森林農牧研究所(INIFAP=Instituto Nacional de Investigaciones Forestales y Agropecuarias)設置されている。INIFAPは1985年に農業試験場(INIA)、畜産試験場(INIP)及び森林試験場(INIF)の3試験場が合併して設立され、研究計画の立案、実施及び試験研究に対する評価を行うなどメキシコの森林農牧業に関する研究全般を統括している。国内で普及される技術はすべてINIFAPで開発されたり、実証されたものであることが原則となっている。
- ②メキシコは行政区分が1連邦区(メキシコシティ)と31州に分かれているが、INIFAPはこれらの行政区を8つの地域に区分して運営している。中央機関はメキシコシティにある。
- ③8つの地域区分は、北東(ソノラ、シナロア、北バハ・カリフォルニア、南バハ・カリフォルニア)、北中央(チウアウア、ドゥランゴ、サカテカス、アグアス・カリエンテス)、北

西（タマウリパス、コアウリア、ヌエボ・レオン、サン・ルイス・ポトシ）、中部太平洋（ハリスコ、ナヤリット、コリマ、ミコアカン）、中央（メキシコ、グアナファト、ケレタロ、イダルゴ、トゥラスカラ、プエブラ、モレーロス）、中部湾岸（ベラクルス、タバスコ）南部太平洋（オアハカ、グレーロ、チアパス）、南東（ウカタン、カンペチェ、キンタナロー）である。

- ④各地域には中央機関(Direccion Regional)が設置され、森林部(Direccion Forestal)、農業部(Direccion Agricola)、畜産部(Direccion Pecuaria)、管理部(Direccion Administracion)の4部で構成されている。また、各州には研究管理センターが設けられ、各州にある試験場と地域中央機関や試験場間の連絡調整に当たっている。
- ⑤INIFAPには全国に101の試験場と6つの専門別研究センターがある。専門別研究センターは、植物生理(Fisiologia)、微生物(Microbiologia)、生物工学(Biotecnologia)、遺伝資源(Rec Geneticos)、機械(Mecanizacion)、林産(Tecnologia de la Madera)、土壌植物大気水分動態(Relacion Agua Suelo Planta Atmosfera)である。
- ⑥INIFAPの予算総額は、1989年は1,400億ペソであったが、1992年には2,177億に増加した。これは現在の交換率で換算すると91億円に相当する。
- ⑦INIFAPの研究者は、総数約1,850人で、農業1,300人、畜産350人、森林200人、この内M.S.及びPh.Dは約30%である。

(2) 研究目的及び研究課題

①食糧自給の技術開発

- (イ) INIFAPは、1988年と1989年に、灌漑耕地100万ha、良好な天水耕地200万haで、トウモロコシ生産を倍加できる技術を開発したことを証明した。この技術を普及するために農業水資源省はPRONAMA計画を立て、計画推進のために、トウモロコシを栽培している25州に1990年から1994年にわたり責任者を配属した。22種のハイブリッド品種の第3世代と白色トウモロコシの優良種が栽培され、前述の2区域における増産見込みは、年当たり500万トンで、すでに生産されているものを合わせると1,100万トンとなりトウモロコシの自給が保障される。
- (ロ) INIFAPは、地力増強によりフリホール（インゲン豆）の自給を回復し、維持する技術をもっている。現在フリホールは200万ha栽培されている。この技術は20万haの低地灌漑耕地で現在の生産性を2倍に向上させ、100万haの良好な天水耕地では、50%の収量増大が可能である。現在、フリホールの20種類の優良品種が用意されている。これらは調理特性が良く、よく発生する病害に抵抗性である。
- (ハ) コムギ生産は、研究者と生産者の努力により年々100kg/ha増大し、現在、国の平均で44ton/haの収量に達している。4種の新しいコムギ品種が育成され、サビ病の生物的防除に成功している。これは100万haの天水耕地に適用できるが、かなりの乾燥地域でも1.5ton/ha以上の収量が得られ、雨が多い年には5ton/haの収量に達することも可能である。
- (ニ) コメの問題については、シナロアやモレーロスにおいて、間欠灌漑により灌漑水の使用量を削減する研究があり、この技術により現行の半分の水量に削減することができる。また、「浮きイネ」栽培システムによりメキシコ湾岸や太平洋湾岸の50万haの冠水地域でイネ栽培が可能である。この技術はコメの自給体制を支えるために有効であるばかりで

なく、近い将来にシナロアやモレーロスの灌漑によるコメ栽培を駆逐し、水の有効利用によりメキシコ南東部における農業生産を発展させる可能性がある。

(ホ) INIFAPは、最近ゴマの1代雑種を放出したが、それは南東部の灌漑地域や天水地域で実際に栽培されている。

(ヘ) 大豆は適応品種がある南東部での栽培の拡大が進められている。

(ト) 「Amaillamiento Letal」に対する抵抗性を比較するために、ココヤシの遺伝子解析による品種改良の強化プロジェクトが推進されている。ココヤシが現在栽培されている207,00 haの面積を倍加することが可能である。乾燥熱帯への灌漑技術の導入により、ナツメヤシと同時に1年生の作物や多年生の低木を栽植したり、バナナや柑橘類を栽培することができる。

(チ) 熱帯の牧草の問題では、放牧や刈り取り用のイネ科や豆科の優良な品種を利用して、600万haの栽培草地と1,200万haの自然草地や不完全利用地を牧草で覆うことができる。INIFAPが育成した牧草の新品種、例えば「Insurgente」、「Llanero」、「chotalpo」は、サバンナ性の酸性やアルカリで荒廃した化学的制限因子がある土壌でこれまでより長期間にわたって栽培ができる。最近育成された豆科のClitoria種の「Tehuana」は、熱帯メキシコでアルファルファの生育をも促進する。

② 外貨獲得のための技術開発

(イ) メキシコは、コーヒー、蜂蜜、砂糖、綿、野菜、果実及び子牛を輸出して、その代償としてトウモロコシ、油料種子、牛乳、飼料およびセルローズを輸入しているが、89年度の農業分野の財政バランスはさらに悪化した。

(ロ) 野菜の輸出の問題については、メキシコはアメリカ合衆国の冬季の野菜市場の60%を供給している。INIFAPの野菜問題に対する主要な分担課題は(1) 病虫害防除技術、(2) 灌漑地域における水管理、(3) 土壌の肥沃度の維持土壌改良である。さらに、ジャガイモの「tizón tardío」抵抗性品種を育成して、高品質のジャガイモを生産することである。

(ハ) 野菜の輸出総額はおよそ5,000万ドルになるが、それに比して研究投資額の低落が顕著になっている。研究への投資額は、輸出総額のたった0.2~0.3%であり、しかもその90%がアメリカ合衆国から出されている。この投資額は、先進国で当然投資すべき額（輸出総額の1%）の1/3から1/5にしかない。

(ニ) 熱帯果樹（マンゴー、柑橘、アボカド、パイナップル、スイカ、メロン）については、病虫害防除、栽培管理、肥沃度の維持、水管理、雑草防除がINIFAPの研究課題である。

③ 自然資源の有効利用の技術開発

(イ) 傾斜面の農耕地の3分の2では絶えず土壌侵食が進行し、1kgのトウモロコシの生産について13kgの土壌が失われる計算になる。

(ロ) 水食問題に取り組むために、INIFAPの土壌と水の保全に関する研究計画（ネットワーク）が組織され、土壌タイプごとの水食可能性の研究が開始された。また、機械部門や土地開発部門と連携して、次の研究が始められた。(1) 「pileto」システムによる畝に沿った雨水の捕集、(2) 最近開発された「terraza de muro vivo」法による侵食防止で、この方法は8~30%の傾斜地で効果があり、安価（ha当り0.5tonのトウモロコシに相当）にテラスを保護することができる。

(ハ) 水は農牧業生産で最も重要な制限因子の一つである。INIFAPでは、コムギ、トウモロコシ、フリホール、コメ、ダイズ、綿、果樹、野菜の主要作物に対する効率的灌漑法を開発している。この点に関して、INIFAPがLagunera地域の試験で得た成果は重要である。この試験では綿、アルファルファ、ブドウを表面灌漑で栽培し、収量の増加と同時に、それぞれ29%、31%、56%の灌漑水が節約できた。これら作物の現在の作付面積から推定すると、年間4億2,400万m³の灌漑水が還元できる。

(ニ) 自然資源を有効利用するために、輪作栽培も重要である。ソノラやシナロアでは、一つの作物の栽培周期が終了しない前に次の作物を播種し、土地の荒廃を防止する技術が開発されている。この方法によりコムギの栽培が終了する前にトウモロコシを播種してha当たり3tonを収穫し、続いて大豆の栽培を開始する。この技術により灌漑水がこれまでより有効に利用され、気象条件に応じて土地を最適に利用することが保証される。この輪作栽培は60万haの耕地で可能であり、現在のトウモロコシと大豆の収量に加えて、年間200万トンのトウモロコシを収穫することができる。

5) 国際協力の現況

- (1). ソノラ州のバジェ・デル・ヤギ試験場：CIMMYTとコムギとトウモロコシの育種の共同研究
- (2). ユカタン州のウシマル試験場：ICRISATにソルゴの育種の専門家派遣

6) 研究ニーズ

(1) INIFAPの農業研究の展望

- ① 市場解放が行われる状況のなかで、農耕地の競争力を強めるために、INIFAPは3年以内に灌漑良好地域や天水良好地域の新しいトウモロコシ栽培技術の開発に特に力を入れる。この技術の目標は、20万haの低地の灌漑耕地で適切な栽培管理を行って15ton/haを収量を上げる。200万haの条件が極めて良好な天水地域では平均5ton/haの収量を上げるようにする。
- ② 中央高原には白トウモロコシ雑種の第4世代を導入する。この品種は「Nixtamaleras」に匹敵する特性を有し、栄養特性、栽培特性や生理特性が機械管理に適合し、高収量であり、主要な病害の抵抗性もある。
- ③ 収量限界を拡張するために、農耕地の荒廃を抑制するための技術開発を推進する。
- ④ メキシコでは少ない投資で農業生産が可能な優良な土地はほとんどないので、農業生産を増大させるには現在栽培されている耕地の生産性を向上させる方が好ましい。
- ⑤ INIFAPは生産性の高い独自の種子を育成し、それらの認定された種子をおよそ8,000ton生産している。短期間にこの種子を自由に使用できるようにし、安価で品質が良いことを示して、研究計画に再投入できる財源を確保する。
- ⑥ 今回訪問した試験場で提案された共同研究課題
 - (イ) コスタ・デ・エルモシオ：灌漑水の有効利用技術
水分需要の低い作物の導入
 - (ロ) バジェ・デル・ヤギ：灌漑地域の塩類土壌の改良
 - (ハ) ジェネラル・テラン：ウィルスフリー柑橘の育成

(ニ) ウシマル

：フリホールの耐乾・耐病性品種の育成

ホットペッパーの耐乾・耐病性品種の育成

7) 共同研究への戦略的アプローチ

- (1) NARS (INIFAP) の組織はかなり分散していて、未だ全体像が明かに出来なかった。特に、専門別研究センターについては、ほとんどが未調査であり、今後詳細な調査が必要である。
- (2) 現時点では、計画されている CIMMYT との共同研究を推進し、そのなかでメキシコの農林・畜産・水産業の研究情報をさらに収集する。

8) 共同研究実施上の問題点

- (1) 研究費が極めて乏しい様子で、研究者がかなりの不満を持っていた。最近、研究成果の出版もかなり制限されており、新しい出版物の入手が困難であった。
- (2) 2ヵ月前に航空便で発送した郵便小荷物が、今だにこちらに到着していないことから、機材の輸送には長期間を要するものと予想される。
- (3) メキシコシティ周辺は大気汚染が激しく、生活環境がよくない。日本大使館の職員は、週末には家族を連れて保養地に緊急避難をしているようである。

付表 2

貿易統計

			1962-66	1967-71	1972-76	1977-81	1982-86
全商品貿易	メキシコ	輸出	1031.49	1263.41	2650.41	10756.21	21908.36
		輸入	1433.10	2070.78	5147.54	14139.67	12252.48

	中米地域	輸出	726.68	1097.60	2278.89	4630.52	4200.95
		輸入	935.10	1423.03	3141.27	6277.61	6326.71

農業貿易	ブラジル	輸出	1477.47	2297.81	7387.93	16689.77	23422.34
		輸入	1363.59	2522.93	10633.08	19425.44	16288.84

	メキシコ	輸出	603.74	728.76	1187.66	2136.42	2153.34
		輸入	161.00	237.04	851.08	2365.72	2294.50

農業貿易	中米地域	輸出	606.78	842.18	1697.42	3604.16	3178.80
		輸入	151.50	234.86	432.28	898.68	904.02

	ブラジル	輸出	1266.20	1793.18	4770.54	8769.84	10027.34
		輸入	296.12	402.90	1088.80	2207.74	1864.12

付表3

メキシコ農業生産データ (FAO Production Yearbook 1990)

	1975	1980	1985	1990
Land Use (1000 ha)				
Total Area	195820	195820	195820	195820
Land Area	190869	190869	190869	190869
Arab&Perm Cr	23840	24530	24700	24710
Arable Land	22340	23000	23150	23150
Perm Crops	1500	1530	1550	1560
Perm Pasture	74499	74499	74499	74499
Forest&WoodL	51150	47840	45160	42460
Other Land	41380	44000	46510	49200
Irrigation	4497	4980	5285	5180
Population (1000)				
Total	61918	70416	79376	88598
Agricultural	24967	25723	26326	26544
Economically active population				
Total	18418	22831	26734	31175
In agriculture	7426	8341	8867	9340
% in Agriculture	40.3	36.5	33.2	30.0
Food Production Indices (1979-81=100)				
Food Production		99.91	114.36	122.89
Total Agriculture Production		100.11	112.50	122.71
Crop Production		99.74	118.27	119.08
Livestock Products		100.20	112.26	129.58
Cereal Production		101.00	131.67	123.59
Index Numbers of Per Caput (1979-81=100)				
Food Production		99.99	101.54	97.75
Total Agricul. Production		100.19	99.88	97.60
Crop Production		98.88	105.07	94.78
Livestock Production		100.27	99.66	103.06
Creal Production		101.39	117.26	98.61

付表4

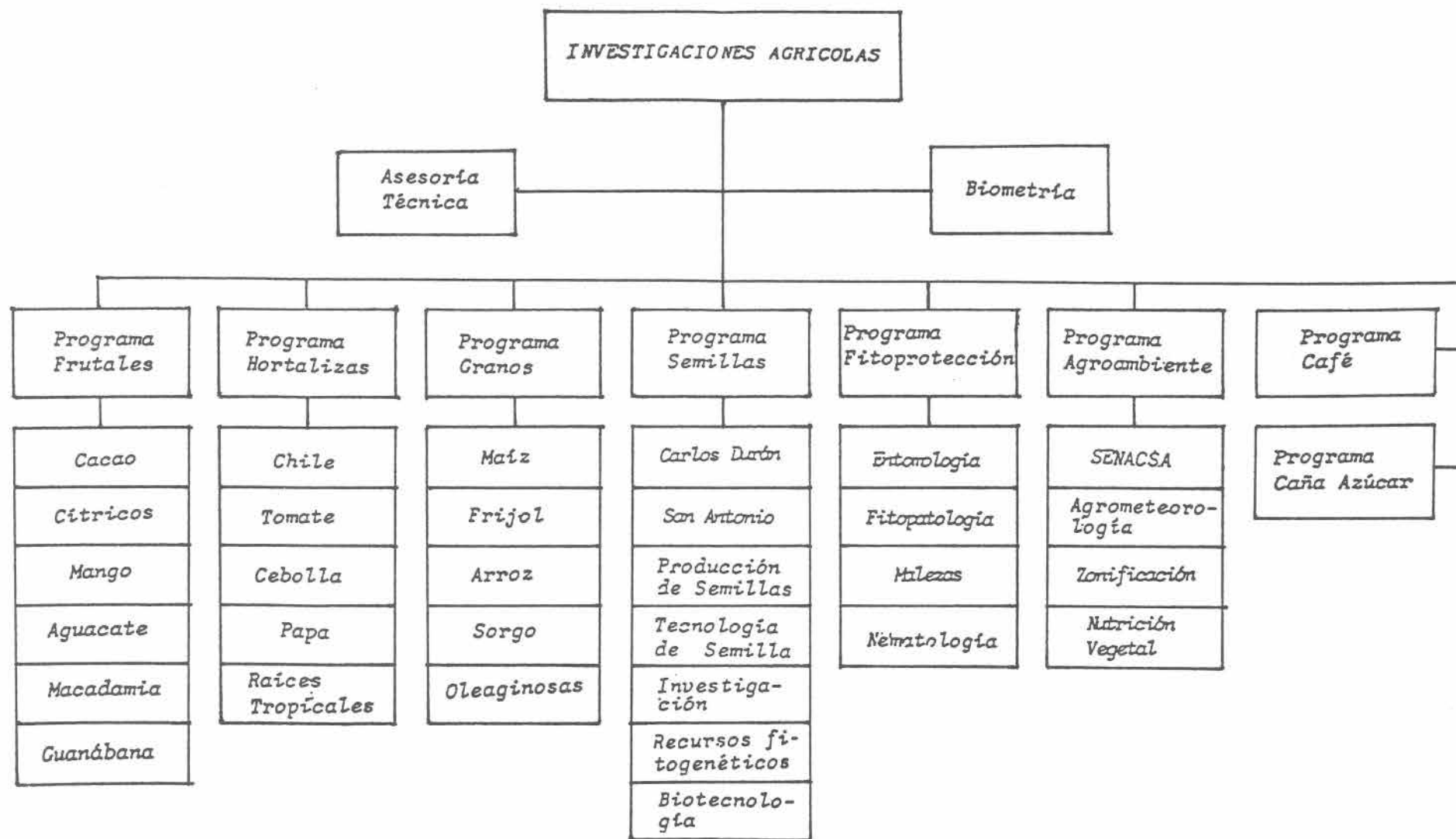
メキシコ作物統計

作物名	収穫面積 (1000ha)				収 量 (kg/ha)				生 産 量 (1000 Mt)			
	1979-81	1989	1990	1991	1979-81	1989	1990	1991	1979-81	1989	1990	1991
穀 物	9547	9800	10574	9894	2152	2194	2416	2330	20692	21506	25545	23056
小 麦	723	1145	933	985	3822	3821	4214	4178	2754	4374	3931	4115
米	153	186	105	88	3447	3423	3742	4023	528	637	394	354
粗粒穀物	8671	8467	9535	8821	1990	1948	2225	2107	17411	16495	21220	18587
大 麦	281	263	263	281	1772	1643	1872	2078	486	433	492	584
トウモロコシ	6836	6468	7339	7051	1718	1692	1994	1918	11866	10945	14635	13527
ソルガム	1491	1620	1820	1380	3343	3090	3285	3164	4991	5004	5978	4367
根茎作物	87	74	86	75	12906	14685	15835	15089	1120	1091	1367	1127
豆 類	1834	1482	2299	2236	719	515	661	743	1311	763	1520	1661
実 綿	362	191	220	252	2718	2352	2503	2365	984	449	550	595
砂糖キビ	535	558	558	540	66016	72027	62508	67986	35324	40200	34893	36683
コーヒー	451	482	669	664	507	713	658	450	228	343	440	299
野菜・メロン									3860	5172	5161	4840
果 実									7316	7526	7897	9605
バナナ									1435	1185	1591	1868

付表5

コスタ・リカ農業生産データ (FAO Production Yearbook 1990)

	1975	1980	1985	1990
Land Use (1000 ha)				
Total Area	5110	5110	5110	5110
Land Area	5106	5106	5106	5106
Arab&Perm Cr	492F	506F	523F	529F
Arable Land	283*	283F	285F	285F
Perm Crops	209F	223F	238F	244F
Perm Pasture	1630F	2010F	2280F	2330F
Forest&WoodL	2200*	1830*	1640F	1640F
Other Land	784	760	663	607
Irrigation	36F	61F	110F	118F
Population (1000)				
Total	1968	2285	2642	3015
Agricultural	729	713	728	729
Economically active population				
Total	638	774	917	1052
In agriculture	233	238	249	251
% in Agriculture	36.6	30.8	27.1	23.8
Food Production Indices (1979-81=100)				
Food Production		98.65	105.58	129.56
Total Agriculture Production		98.98	107.67	131.56
Crop Production		99.05	105.09	136.72
Livestock Products		98.65	114.00	116.79
Cereal Production		103.95	110.74	84.57
Index Numbers of Per Caput (1979-81=100)				
Food Production		98.59	91.23	98.12
Total Agricul. Production		98.96	93.08	99.68
Crop Production		99.04	90.86	103.60
Livestock Production		98.60	98.52	88.46
Creal Production		103.92	95.72	64.07



付図1 ORGANIGRAMA ESTRUCTURAL

付表1

農業生産統計

		1962-66	1967-71	1972-76	1977-81	1982-86
国際価格による 年間作物生産額 (100 万米ドル)	メキシコ	5,319.7	6,233.6	6,831.0	8,063.1	8,746.7
	コスタリカ	275.8	391.4	472.5	528.9	586.8
	ブラジル	13,893.5	15,954.9	18,526.8	22,373.8	26,842.4
	アルゼンチン	5,319.7	5,888.6	6,846.4	8,098.9	9,902.7
	中米地域	2,043.7	2,522.0	3,003.9	3,438.4	3,419.0
国際価格による ヘクタール当り 年間作物生産額 (米ドル)	メキシコ	224.0	268.2	288.2	330.4	353.8
	コスタリカ	568.8	797.6	959.0	1,051.2	1,131.0
	ブラジル	273.0	297.6	312.6	323.8	355.8
	アルゼンチン	185.4	179.2	198.8	230.6	276.2
	中米地域	344.6	423.0	487.8	529.0	512.4
作物生産年間 平均増加率 (%)	メキシコ	3.41	1.85	3.37	1.64	
	ブラジル	2.80	3.03	3.85	3.71	
	中米地域	4.30	3.56	2.74	- 0.11	
GDPに占める 各部門のシェア (%)	メキシコ	農 業	16.8	12.2	11.2	11.4
		工 業	38.8	40.9	40.7	37.6
		サービス	44.4	46.9	48.1	51.0
	中米地域	農 業	24.0	21.6	20.8	21.3
		工 業	21.9	23.6	24.5	23.2
		サービス	54.1	54.8	54.7	55.5
	ブラジル	農 業	16.8	12.2	11.2	11.4
		工 業	38.8	40.9	40.7	37.6
		サービス	44.4	46.9	48.1	51.0